

【参加者】

委員 貢田浩邦 伊藤敬子 大山美千子 下山千恵子 川井信一 川島 啓 塩沢建樹

(欠席 永井 春江 石崎 真清)

学校地域協働推進員 宮川長一

事務局 鈴木寧子 五月女穂

○前期の振り返り学校の様子（校長説明）

- ・学校だよりを踏まえて、学校の様子を説明。
- ・前期終業式では各学年の生徒発表からそれぞれの学年に応じた成長が感じられた。
- ・本日3年ぶりに合唱コンクールを開催する。保護者の入場は遠慮してもらった。YouTubeでのライブ配信を実施予定。
- ・国分寺公民館にて生徒作品を展示している。（～10／30）

○意見交換～前期の振り返り～

- ・授業参観で美術室と被服室のエアコンが入っていないことが初めて知り、ずっと気になっている。
- ・生徒の学習環境を整えるために尽力したい。
- ・市長いきいきタウンワークに参加してきた。そこで意見を言いたかったが、時間が足りず言えなかつた。
- ・市内どの学校も共通して困っているとしたら、市Pが共同して一斉に声をあげていくのもいい方法だ。
- ・12月前半に市Pで集まる機会があるからその際に話題にしたい。
- ・参考までの情報提供として、他市町ではエアコンの設置はかなり進んでいる。体育館にも整備が進んでいて、全校設置完了している自治体もある。
- ・合唱コンクールも実施されるということで、学校生活もコロナ前の形に戻りつつあるように感じる。といっても、まだ完全に安心できる状況とは言えない。そのような中、保護者の中には完全に元に戻して例えば、運動会や合唱コンクールの保護者の入場制限や行事の制限に不満の声があるのも事実だ。しかし、学校の考え方や決定の経緯を伺うとしても納得のできるものである。当然の決定だと考えることができる。その際、きっと不満の声をあげている保護者もその理由をちゃんと知れば、きっと理解してくれると思われる。伝えることで理解を得られるということだ。知らないことでもやもやして、不満も大きくなることもある。学校の伝え方や学校の考え方をどう弁するかの工夫も求められる。

○協議

「サマータイムについて」

事務局：協議題設定の理由説明

学校からの提案…今年の夏、熱中症予防のため、市教委を通じて放課後の部活動の実施にかなり制限がかかった。その際、放課後がダメなら朝練をしたいとの申し出が複数の部活からあがった。そこで、思い

切って気温がまだ上がりきらない朝の時間帯に一斉に部活動を実施して、授業開始時刻を 1 時間程度遅らせるサマータイム時間割を作った。今年度は各所調整ができず、実施に至らなかった。来年度実施するかどうかは白紙である。熱中症の心配はきっと来年度も変わらないだろう。コロナの状況も先行きが不透明である。学校の力ではいかんともしがたい状況をどのように工夫してよりよい学校生活につなげていけるか、サマータイムは一つのきっかけとして、幅広くご意見をいただきたい。

## (2) 協議

- ・昔、朝練は意味がないと言われていた。授業に影響は出ないのか。
- ・保護者の負担が大きいのではないか。
- ・大会そのものは暑い時間帯に実施される。その間に合わせた練習も必要なのではないか。
- ・来年度から大会が 1 つ減るということは、大会にかける思いは大きくなる。子供たちに十分に練習をさせてあげたい。
- ・もし実施するとなれば丁寧な説明が必要である。
- ・3 年後は土日の部活動は地域へ移行することが決まっている。
- ・学校としては、土日よりも平日が忙しいのではないか。自分が教員をしていた頃はそうだった。平日部活ができる地域人材がいて、土日は教員がやるというのが自分としては理想である。
- ・丁寧な説明をすると納得が得られることがある。
- ・一度変わっていったことを元に戻すことはなかなか難しい。コロナで変化した学校生活を元に戻すのではなく、コロナで工夫してよかったことを積極的に取り入れていくことが必要だ。

事務局より

- ・今度いただいたご意見を参考にして、校内で対応を検討していく。

宮川先生より

視点を絞った内容の濃い協議になっていた。保護者の意見を聞く必要があることと、学校として毅然として対応することを適切に判断する必要がある。学校は今後ますます地域に開かれることが求められる。公民館と学校も今後も様々な連携を進めていきたい。